

1. 試験目的 肥効確認。

2. 試験内容

(1)実施場所 常盤野字上黒沢 (2)実施農家 滝吉 朋哉

(3)実施支店 岩木支店 (4)担当者 下山 喜美

(5)概要

作物名 とうもろこし 品 種 恵味

作 型 栽培密度 畦幅 65 cm 株間 45 cm

播種・定植日 播種 (10a当たり 2500 本)

マルチ使用 無 収穫始め

(6)試験構成

試験面積 80 a (試験区 40 a 対照区 40 a)

資材名	施用日	試験区		対照区	
		施用量	成分内容	施用量	成分内容
かんとりースーパー弘前	5月22日	1000kg			
スーパーソイル	5月22日			1000kg	
合 計		1000kg		1000kg	

3. 試験結果

(1)生育状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(2)収穫状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(3)品質

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(4)農家の意見

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	4	3

(2)評価の理由

施用効果 対象区と同様

実用性 対象区と同様

使いやすさ フレコンのため20kg袋より使いやすい

(3)その他特記事項

1. 試験目的

肥効確認。

2. 試験内容

(1)実施場所

常盤野字上黒沢

(2)実施農家

佐藤 好和

(3)実施支店

岩木支店

(4)担当者

下山 喜美

(5)概要

作物名

とうもろこし

品 種

恵味

作 型

栽植密度

畦幅 65 cm 株間 45 cm

播種・定植日

播種

(10a当たり 2500 本)

マルチ使用

無

収穫始め

(6)試験構成

試験面積

80 a

(

試験区

40 a

対照区

40 a)

資材名	施用日	試験区		対照区	
		施用量	成分内容	施用量	成分内容
かんとりースーパー弘前	5月24日	1000kg			
スーパーソイル	5月24日			1000kg	
合 計		1000kg		1000kg	

3. 試験結果

(1)生育状況

【試験区】

普通

(2)収穫状況

【試験区】

普通

【対照区】

普通

【対照区】

普通

(3)品質

【試験区】

普通

【対照区】

普通

(4)農家の意見

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	4	3

(2)評価の理由

施用効果

対象区と同様

実用性

対象区と同様

使いやすさ

フレコンのため20kg袋より使いやすい

(3)その他特記事項

1. 試験目的

効果確認

2. 試験内容

(1)実施場所

弘前市糠坪

(2)実施農家

棟方 利明

(3)実施支店

弘前西支店

(4)担当者

福田 静

(5)概要

作物名

ピーマン

品種

京まつり

作型

半促成

栽植密度

畦幅 70 cm 株間 60 cm

播種・定植日

定植 ・ 5月4日

(10a当たり 1100 本)

マルチ使用

有

収穫始め

6月14日

(6)試験構成

試験面積

4 a

(

試験区

2 a

対照区

2 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
6/5～	カルタス	1,000	100 $\frac{g}{a}$	6/5～	液体ハイカルック	1,000	100 $\frac{g}{a}$

3. 試験結果

(1)生育状況

【試験区】 普通

(2)収穫状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

【対照区】 普通

(3)農家の意見

メリットの混用が出来るため非常に使いやすい。今後使用したい。

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	4	4

(2)評価の理由

施用効果 対照区と同等

実用性 メリットと混用出来るため

使いやすさ メリットと混用出来るため

(3)その他特記事項



1. 試験目的

効果確認

2. 試験内容

(1)実施場所

平川市 碓ヶ関

(2)実施農家

山田 尚光

(3)実施支店

大鰐支店

(4)担当者

寺田 佳洋

(5)概要

作物名

ピーマン

品種

京まつり

作型

夏秋

栽植密度

畦幅 50 cm 株間 60 cm

播種・定植日

定植 ・ 4月30日

(10a当たり 960 本)

マルチ使用

有

収穫始め

6月10日(個選)

(6)試験構成

試験面積

7 a

(

試験区

4 a

対照区

3 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
5月15日	カルタス	500	20 $\frac{g}{a}$	5月15日	液体ハイカルック	1,000	20 $\frac{g}{a}$
随時				随時			

3. 試験結果

(1)生育状況

【試験区】

普通

(2)収穫状況

【試験区】

普通

【対照区】

普通

【対照区】

普通

(3)農家の意見

メリットとの混用ができ、作業時間が半分になるため作業簡略化ができた。

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	3	3

(2)評価の理由

施用効果

同等。

実用性

メリットとの混用につき。

使いやすさ

同等。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 効果確認

2. 試験内容

(1)実施場所 鬼沢 (2)実施農家 鬼楯営農組合

(3)実施支店 弘前北支店 (4)担当者 長尾 紀夫

(5)概要

作物名 ミニトマト 品 種 アンジェレ

作 型 ハウス 栽植密度 畦幅 cm 株間 30 cm

播種・定植日 定植 ・ (10a当たり 1443 本)

マルチ使用 無 収穫始め

(6)試験構成

試験面積 23 a (試験区 23 a 対照区 a)

資材名	施用日	試験区		対照区	
		施用量	成分内容	施用量	成分内容
LEAF ENERGY		250ml			
合 計		0kg		0kg	

3. 試験結果

(1)生育状況 (2)収穫状況

【試験区】 良好

【試験区】 良好

【対照区】

【対照区】

(3)品質

【試験区】 良好

【対照区】

(4)農家の意見

順調に生育し、アンジェレの大きさや、実の変形は少ないと思われる。

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

施用効果 有り

実用性 有り

使いやすさ 有り

(3)その他特記事項

1. 試験目的 高温時の花落ち、尻ぐされの軽減

2. 試験内容

(1)実施場所 大鰐町唐牛 (2)実施農家 藤田 勉

(3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 寺田 佳洋

(5)概要

作物名 トマト 品種 りんか409

作型 夏秋 栽植密度 畦幅 60 cm 株間 35 cm

播種・定植日 定植 4月30日 (10a当たり 1700 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月28日

(6)試験構成

試験面積 4 a (試験区 2 a 対照区 2 a)

資材名	施用日	試験区		対照区	
		施用量	成分内容	施用量	成分内容
ウルトラトマトくん	4月18日	32kg	10-10-10		
ウルトラトマトくん	4月18日			32kg	10-10-10
LEAF ENERGY	5月28日	60ml			
合計		32kg		32kg	

3. 試験結果

(1)生育状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(2)収穫状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(3)品質

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(4)農家の意見

差は見られなかった。

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

施用効果 対照区と同等。

実用性 対照区と同等。

使いやすさ 対照区と同等。

(3)その他特記事項

1. 試験目的 効果確認

2. 試験内容

(1)実施場所 弘前市独狐 (2)実施農家 町田 昌三

(3)実施支店 弘前西支店 (4)担当者 福田 静

(5)概要

作物名 トマト 品 種 桃太郎ワンダー

作 型 ハウス 栽植密度 畦幅 60 cm 株間 35 cm

播種・定植日 定植 ・ 4月23日 (10a当たり 1980 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月28日

(6)試験構成

試験面積 6 a (試験区 3 a 対照区 3 a)

資材名	施用日	試験区		対照区	
		施用量	成分内容	施用量	成分内容
スキーポンアグリ	6/20~	2.5kg	酢酸		
合 計		2.5kg		0kg	

3. 試験結果

(1)生育状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(2)収穫状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(3)品質

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(4)農家の意見

効果が実感出来なかった。

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	2	2	3	2

(2)評価の理由

施用効果 効果面から

実用性 問題なく使用できた

使いやすさ 問題なく使用できた

(3)その他特記事項

1. 試験目的 高温時の花落ち、尻ぐされの軽減

2. 試験内容

(1)実施場所 大鰐町居士 (2)実施農家 渡辺 正美

(3)実施支店 大鰐支店 (4)担当者 寺田 佳洋

(5)概要

作物名 トマト 品種 桃太郎 8

作型 夏秋 栽植密度 畦幅 90 cm 株間 35 cm

播種・定植日 定植 ・ 4月28日 (10a当たり 1500 本)

マルチ使用 有 収穫始め 6月28日

(6)試験構成

試験面積 4 a (試験区 2 a 対照区 2 a)

資材名	施用日	試験区		対照区	
		施用量	成分内容	施用量	成分内容
スキーポンアグリ	7月2日	2.5kg			
合計		2.5kg		0kg	

3. 試験結果

(1)生育状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(2)収穫状況

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(3)品質

【試験区】 普通

【対照区】 普通

(4)農家の意見

効果はわからなかった。

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	2	2	2	2

(2)評価の理由

施用効果 効果が不明

実用性 効果が不明

使いやすさ 効果が不明

(3)その他特記事項



1. 試験目的 効果確認
2. 試験内容
- (1)実施場所 藤崎町 柏木堰 (2)実施農家 工藤 理絵
- (3)実施支店 藤崎支店 (4)担当者 鳴海 清志郎
- (5)概要
- 作物名 ピーマン 品種 京まつり
- 作型 夏秋 栽植密度 畦幅 70 cm 株間 60 cm
- 播種・定植日 定植 ・ 5月21日 (10a当たり 1100 本)
- マルチ使用 有 収穫始め 7月2日

- (6)試験構成
- 試験面積 8 a (試験区 4 a 対照区 4 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
6月9日	ファイト・カル	1,000	20 $\frac{g}{a}$	6月9日	バイカルティ	1,000	20 $\frac{g}{a}$
6月20日	ファイト・カル	1,000	20 $\frac{g}{a}$	6月20日	バイカルティ	1,000	20 $\frac{g}{a}$
6月30日	ファイト・カル	1,000	25 $\frac{g}{a}$	6月30日	バイカルティ	1,000	25 $\frac{g}{a}$
7月11日	ファイト・カル	1,000	25 $\frac{g}{a}$	7月11日	バイカルティ	1,000	25 $\frac{g}{a}$

3. 試験結果
- (1)生育状況 (2)収穫状況
- 【試験区】 良好 【試験区】 良好
- 【対照区】 良好 【対照区】 良好

- (3)農家の意見
- 展着剤不要とのことで少し不安だったが果面汚れも少なく問題なく使用できた。尻ぐされに関しては両区とも発生していたが、7/25の降雨以降発生が治まったため剤の効果があったかは定かではない。

4. 評価
- (1)資材の評価
- | 項目 | 施用効果 | 実用性 | 使いやすさ | 総合評価 |
|----|------|-----|-------|------|
| 評価 | 3 | 3 | 4 | 3 |

- (2)評価の理由
- 施用効果 対照区と同等のため。
- 実用性 対照区と同等のため。
- 使いやすさ 展着剤を入れなくても良いため。

- (3)その他特記事項

1. 試験目的

効果確認

2. 試験内容

(1)実施場所

大鰐町 長峰

(2)実施農家

山本 竜史

(3)実施支店

大鰐支店

(4)担当者

寺田 佳洋

(5)概要

作物名

ピーマン

品種

京まつり

作型

夏秋

栽植密度

畦幅 70 cm 株間 60 cm

播種・定植日

定植 ・ 5月20日

(10a当たり 1100 本)

マルチ使用

有

収穫始め

7月1日(共選)

(6)試験構成

試験面積

6 a

(

試験区

3 a

対照区

3 a)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量	散布日	薬剤名	倍数	a当 散布量
6月15日	ファイト・カル	1,000	20 $\frac{g}{a}$	6月15日	液体ハイカルック	1,000	20 $\frac{g}{a}$
随時				随時			

3. 試験結果

(1)生育状況

【試験区】 良好

【対照区】 良好

(2)収穫状況

【試験区】 良好

【対照区】 良好

(3)農家の意見

どちらも生育は良好であったが、試験区では尻腐れが少なかった。

4. 評価

(1)資材の評価

項目	施用効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	4

(2)評価の理由

施用効果

尻腐れが少ないため効果あり。

実用性

商品化率が向上するため。

使いやすさ

同等。

(3)その他特記事項